

会場討論「瀬戸内地域における生物多様性の課題－持続可能な社会づくりのために」

【瀬戸内海の沿岸環境】

・今、香川で一番問題となっていることは何か？

→人々が海を意識していないこと。海況観が欠けている。

→愛媛の越智諸島では、島の周囲が防波堤で囲まれ、周回道路ができている。防波堤や道路は島民の暮らしに必要なが、そのために自然海岸が失われている。

→防波堤を作ると海の水の流れが変わり、砂のたまる場所が変わる。人間の知恵が足りない。

→愛媛でも砂浜の海岸が減っている。子供が泳げる場所がなくなった。

→川から海への砂の供給がない。ダムや公共工事の影響で砂が海へ流れ出さなくなった。

・東日本大震災以降、防災目的の工事の巨大化・均一化が進んでいる。これが生物多様性に影響を及ぼしている恐れがある。

・今治市には砂浜が広がっているが、ビーチクリーン活動のために海浜植物まできれいに除去されてしまっている。善意の活動が「大きなお世話」になっている。

→企業や自治体が海の清掃活動の取り組みをする事例が近年、増えている。

・香川の海浜植物でハマゴウという種がある。地元の人はこの実を採取して、枕の中に詰めていた。よい香りがする。しかし、天然記念物に指定されたため、採取ができなくなった。地域の大切な文化が失われる。

・徳島では自然景観の観光地化によるオーバーユースが問題となっている。

【海中の環境】

・瀬戸内海では海砂の採取が行われてきた。海の中は見えないので分かりにくいですが、深掘りで海中の生態系に変化が起きた。

・海の水質そのものは、以前よりも（排水の規制がなかったときよりも）良くなっている。しかし、物理環境が変わってしまったことが問題である。

・海苔に色がつかなくなっている。河川から供給される養分が少ない。

・海中のごみが多い。瀬戸内海では漁網にごみが多くかかって漁民が困っている。魚とごみとを分けるのに手間がかかる。

【川と水の問題：陸と海のつながり】

・香川では水対策は？

→香川の水は、吉野川から香川用水を通して来ている。

→ため池は日本一多い。川には水が流れていないが、昔からそうだった。

- ・香川では川はあっても、水が流れていない。川の水が海へ届かない。
- 丸亀の土器川流域では、水は農業用水に使われているため、海へ流れる量は少ない。
- ・香川では節水意識は高いが、水をきれいにする意識が低い。下水道の普及率が低い。普段、川に水が流れていないせいである。ようやく最近は合併浄化槽をすすめるようになってきている。
 - ・香川でうどんづくりが盛んなのは米が作れず、小麦を栽培するから。ただし、うどん排水では汚れた水を多く流している。
 - ・徳島では、湧水が少ない。瀬戸内海では、海底から水が湧いている。
 - ・高知の仁淀川流域では、農家が井戸を掘っているが、どんどん深く掘らないといけなくなっている。
 - ・自然に対する関心度が香川では低い。
 - ・中国から汚染物質が流れてきている。PM2.5 のような大気汚染物質だけでなく、中国の川から海へ流れ出たものが日本沿岸に流れてきている。

【森林と緑地の保全】

- ・間伐材でお箸を作る活動をしている。
- ・徳島の自然公園の管理をしているが、香川の山岳団体の人がよく山に登山標を残していく。
- ・徳島では秋がない。市内では街路樹が落葉する前に選定してしまう。住民から落ち葉対策の要望があったりして、早めに切ることもある。
- ・香川には立派なクスノキ並木がある。

【四国の連携について】

- ・ラムサールネット日本の活動の一つとして、湿地のグリーンウェイブ活動をしている。水に関わるイベントを多く登録してほしい。

以上